

近江米

第56巻
第2号
(通巻274号)

令和7年

06
(2025年)

発行 / 近江米振興協会

編集責任者 / 小久保 泰

- 近江米振興協会事業計画について
- 猛暑に打ち克つイネづくり

大津市松本一丁目2-20 滋賀県農業教育情報センター内
TEL(077)523-3920 FAX(077)523-5611
ホームページ <https://www.ohmimai.jp/>
E-mail : shiga@ohmimai.jp

安全・安心、
美味しいお米は
近江米。



水田に映る爽やかなメタセコイヤ並木（高島市）

令和 7 年度 近江米振興協会通常総会を開催

近江米振興協会

令和 7 年 6 月 6 日、大津市の滋賀県農業教育情報センターにおいて令和 7 年度近江米振興協会通常総会を開催しました。

冒頭、近江米振興協会大林専務（JA 中央会副会長理事）は、全国的な米の品薄状況などから米離れが加速しないか心配するところであり、このような状況下で集荷団体でも集荷に苦戦しており、販売についても大きな影響が出ている。また、政府備蓄米の放出について生産現場への影響を注視していく必要がある。産地としてしっかりと生産・供給することがますます重要で、異常気象が常態化している中において土づくり、水管理、適期収穫等の基本技術を押さえ、近江米の生産基盤を守っていくために皆様方の協力を改めてお願いしたい、というあいさつがありました。

続いて、守山市近江米振興協会福嶋信宏課長を議長に選任し、令和 6 年度事業報告並びに収支決算（案）について原案どおり承認されました。

令和 6 年度 事業報告書

I 事業概況

最近の米をめぐる情勢については全国的な品薄状況や生産コストの高止まりなどから、いまだかつてない急激な米価上昇となっており、集荷団体においても集荷に苦戦し、近江米の販売についても大きな影響が出ております。政府備蓄米放出が生産現場に与える影響を注視しながら、これまで以上にしっかりと生産・供給していくことが重要となります。

令和 6 年産米の本県の作況指数は「100（平年並）」でしたが、地域や品種によっては不作の方も多数いた印象でした。また、令和 7 年 3 月末日現在の本県水稻うるち玄米の 1 等比率は 48.2%と前年同様に低い水準となりました。どちらも夏場の高温の影響を強く受けたことが大きな要因の一つとなりました。

このような状況の中、一般財団法人日本穀物検定協会が公表する令和 6 年産米の食味ランキングにおいて滋賀県産「みずかがみ」が、2 年連続「特 A」に評価されました。1 等比率も 85%を維持し、高温に強い特性が発揮できました。これは、生産者の努力によるもので、近江米の力強い牽引力になるものと考えています。

また、令和 6 年産米は新品種「きらみずき」の本格デビューの年となり、県内の 270 名の生産者において 192 ha で生産されました。高温耐性に優れ、1 等比率は 85%と品質面では良好な検査結果だったのですが、収量は地域によって差がでました。これに対して研修会を開催するなど、収量の安定化に向けた取組を行いました。

令和 6 年産麦については、一部地域で春先の雹被害が発生し、被害のあった地域では壊滅的な状況になりました。また、赤カビの発生しやすい気候下で複数回の防除を実施して頂いたり、CE での乾燥調製でも荷受が一時に集中するなか選別にも苦労されました。

令和 6 年産大豆については、播種遅れや湿害・干ばつにより発芽・生育不良が発生したり、虫害被害により収量・品質ともに大きく低下しました。

令和 6 年産は米・麦・大豆とも気候変動の影響を大きく受け、大変きびしい結果となりました。このことに対して、「猛暑に負けないイネづくり」の改訂版や「大豆の単収向上に向けたポイント」を発行して対策を進めました。

Ⅱ 事業別実施状況

1. 生産対策事業について

(1) 安定生産・品質向上対策

- ① 今後も継続すると予測される気候変動に対して「猛暑に打ち克つイネづくり」の改訂版を策定し、近江米の安定生産に向けて取り組みました。
- ② 気候変動に負けない土づくりや病虫害防除対策を目的とした「水田農業振興フォーラム」を開催しました。
- ③ 「大豆の単収向上に向けたポイント」を発行し、栽培技術向上に取り組みました。

(2) 生産意欲向上対策

- ① 「みずかがみ」「コシヒカリ」のブランド力向上を目指し、「近江米特Aプロジェクト」に取り組みました。「みずかがみ」について2年連続で「特A」評価を獲得することができました。
- ② 食味コンクール表彰事業を実施し、「みずかがみ部門」97点、「環境こだわりコシヒカリ部門」89点を出品いただき、上位入賞者には「水田農業振興フォーラム」にて表彰しました。

(3) 新品種「きらみずき」の取組

- ① 生産者、実需者の取組報告を主体とした「きらみずき推進フォーラム」を開催し、取組の機運を高めました。
- ② 生産者募集の説明会を7地区で開催し、令和7年産は309名の生産者で260ha作付することとなりました。
- ③ 令和6年産で取組頂いた生産者対象に栽培研修会を県内2か所で開催し単収向上のポイントなど収量安定に向けた栽培技術を研修しました。

2. 流通対策事業について

(1) 消費者に対する情報発信

- ① 「環境こだわり農業」など滋賀県ならではの取組を、各種メディアやイベントを通じて県内外に発信しました。
- ② 首都圏・関西圏において、「オーガニック近江米」の実需者調査を実施し需要の把握に努めました。

(2) 新品種「きらみずき」の取組

- ① 県外量販店において「きらみずき」デビューイベントを開催しました。
- ② 県内量販店(10店舗)において試食会を開催し、「きらみずき」のおいしさを実感してもらいました。

3. 施設対策事業について

- ① 荷受が集中する麦について、6年産は特に赤カビ発生が懸念されており、区分荷受や乾燥調製の運営管理について重点的に巡回指導をしました。
- ② 事故リスク低減、品質向上に向けた運営管理に加えて、衛生管理についても啓発を行いました。

4. 情報誌発行事業について

- ① 「近江米情報」を関係団体や実需者に向けて、年4回発行しました。
- ② 米、麦、大豆の実需者の評価や栽培のポイント等の情報提供に努めました。
- ③ ホームページ等を活用した情報提供を実施しました。

【訂正】 近江米情報第56巻第1号（令和7年4月号）5ページ、「令和6年度食味コンクール受賞者一覧」に掲載した「環境こだわりコシヒカリ部門」優秀賞受賞者 森岡市蔵さんの「市町」が誤っていたので訂正します。

【誤】 東近江市 → 【正】 日野町

関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

猛暑に打ち克つイネづくり

農業技術振興センター

(1) 温暖化と近江米の現状

滋賀県（彦根）では年平均気温が 100 年で約 1.4℃上昇し、猛暑日※や熱帯夜※の日数も増加しており、この傾向は今後も続くとされています（図 1）。

※猛暑日：日最高気温 35℃以上

熱帯夜：日最低気温 25℃以上

近年、水稻出穂後 20 日間の日平均気温は白未熟粒が急激に増加するとされる 27℃を超えることが常態化しています（図 2）。農産物検査の 1 等米比率は全国平均を下回り、低迷が続いています（図 3）。2 等以下の格付け理由は「心白及び腹白」が最も多く、白未熟粒の発生が検査等級の低下の主な要因となっています。

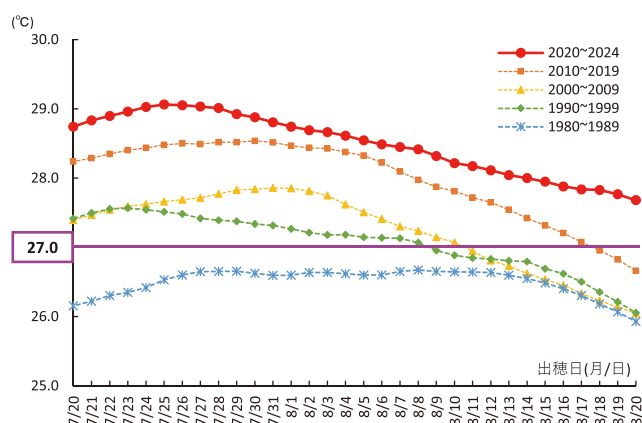


図 2 水稻出穂後 20 日間の日平均気温の平均値（彦根）

※気象庁彦根地方気象台の気象観測データ

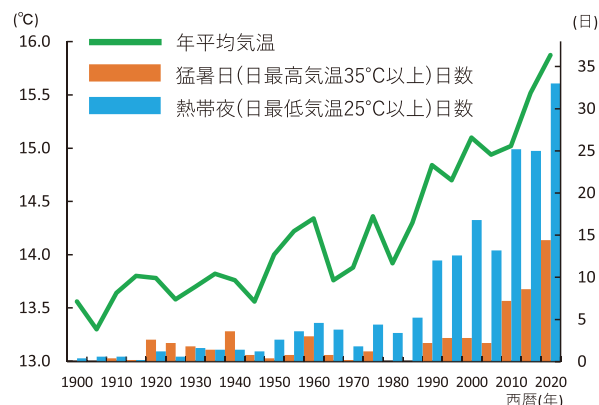


図 1 年平均気温と猛暑日・熱帯夜日数（彦根）

※気象庁彦根地方気象台の気象観測データ

※値は 5 か年毎の平均

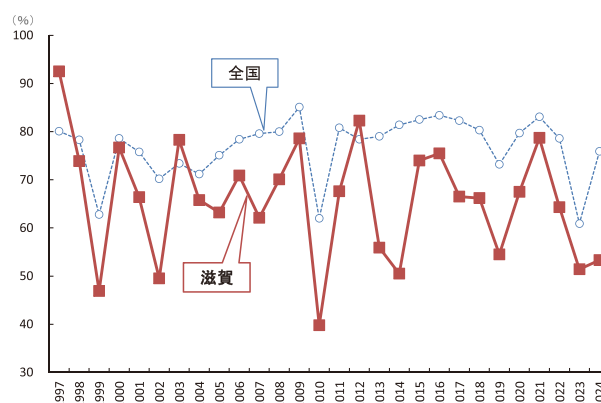


図 3 1 等米比率の推移

※農林水産省「農産物検査結果（水稻うるち玄米）」

（2024：2025 年 3 月 31 日現在）

(2) 安定生産に向けた対策

① 地力の向上による高位安定生産

田畑輪換の繰り返しや気温の上昇により有機物の分解が進み、水田の地力は低下傾向です（図 4）。

また、地力の低いほ場における水稻収量は、平年値と比べて 2023、2024 年度（猛暑年）では減少傾向にあります。地力の低いほ場では年次変動が大きく、減収傾向が高まります（図 5）。そのため、全量基肥体系においても追肥の検討が必要となっています。

さらに、麦前の牛ふん堆肥単用施用により田畑輪換ほ場における水稻の減収を軽減でき、牛ふん堆肥の長期連用により猛暑年においても安定生産が可能なることから、猛暑年における安定多収を確保するには、堆肥等の有機物を用いた地力向上対策が重要となっています（図 6、図 7）。

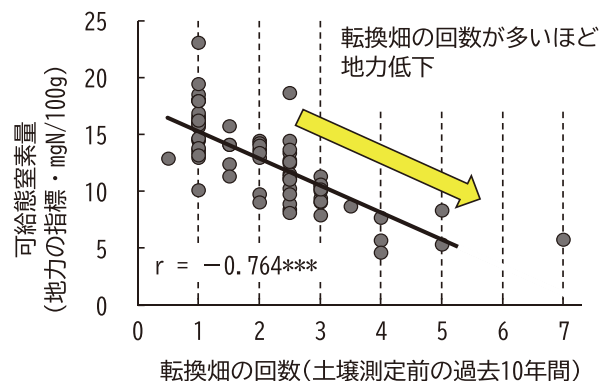


図 4 転換畑の回数と地力の関係（滋賀農技セ 2021）

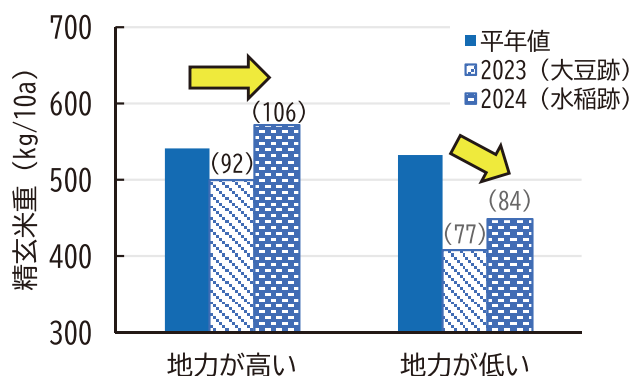


図5 ほ場の地力と収量（滋賀農技セ 2024）

注) 品種「コシヒカリ」（5月上旬移植）。田畑輪換ほ場内（粘質田）に両処理区を設置。
大豆跡水稻：基肥なし＋穂肥 4kg/10a。水稻跡水稻：基肥 2kg＋穂肥 4kg/10a。
平年値：2011～2021 年度の水稻 8 作の平均値。図中（ ）は平年値に対する比数。

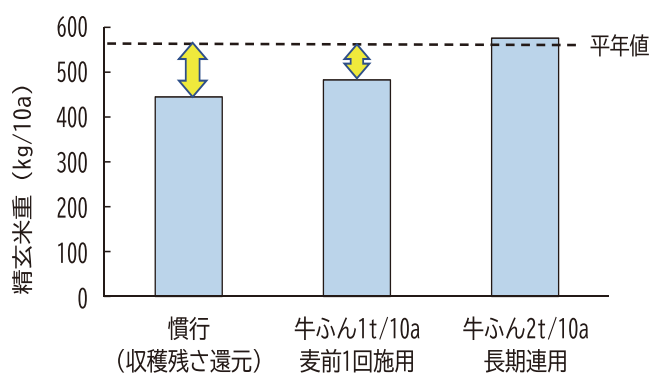


図6 牛ふん堆肥連用による増収効果（滋賀農技セ 2023）

注) 大豆跡「みずかがみ」。5月上旬移植。基肥 0、穂肥 1.5kgN/10a。
田畑輪換ほ場（粘質田）。平年値：慣行 5 年間（H27,29,30,R2,3）の平均値。長期連用：1973 年から連用。

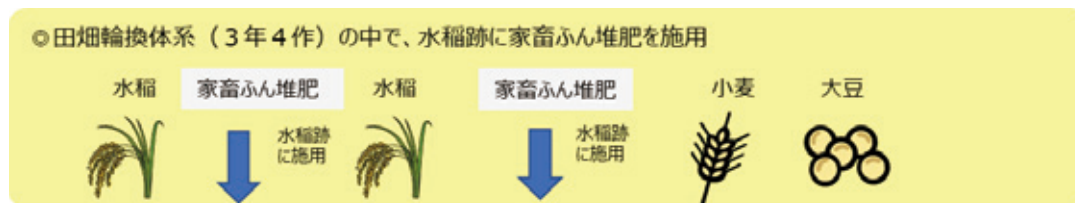


図7 水田における理想的な有機物施用例（水田土づくりマニュアル 2022）

※牛ふん堆肥の施用基準（t/10a）湿田：0.5、乾田：1.5～2、漏水田：2、黒ボク土：1.5～2

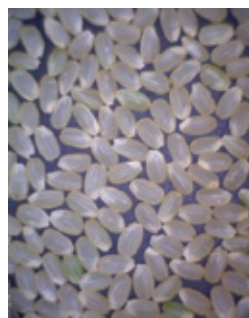
②高温登熟性に優れた品種の活用

猛暑下において品質と収量の安定確保を図るためには、高温登熟性に優れた品種を活用することが有効です。

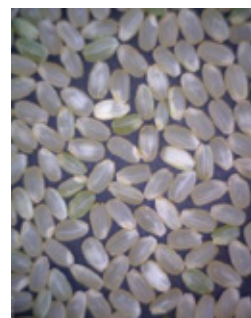
本県の主要品種では、早生は「みずかがみ」、中生は「きらみずき」が高温登熟性の強い品種です。

表1 滋賀県の主要品種の高温登熟性

階級	早生	中生
強	みずかがみ	
やや強	レーク65	きらみずき
中	コシヒカリ	日本晴 秋の詩
やや弱	キヌヒカリ	
弱		



みずかがみ



キヌヒカリ

写真 玄米の比較



図8 2024年産米の1等米比率（2025年3月31日現在，農林水産省，速報値）

③後期栄養の維持確保による高位安定生産

地力が低いほ場や籾数過多のほ場では登熟期間の葉色が低下しやすく、登熟不良となり 白未熟粒や屑米の増加が懸念されます。以下の①②の場合、全量基肥（一発肥料）栽培であっても、出穂 11 日前頃に 1～2kgN/10a を追加施用することで登熟の改善が図れます。

①葉色が淡い場合。

出穂 11 日前（幼穂形成期の 14 日後）までの葉色が、葉色板で 4.0 (SPAD 値 36) 以下

②生育が旺盛で籾数過多が予想されるほ場において、葉いもちが発生していない場合。

※ただし、食味に影響しないよう、施肥の遅れや過剰な施肥に注意してください。

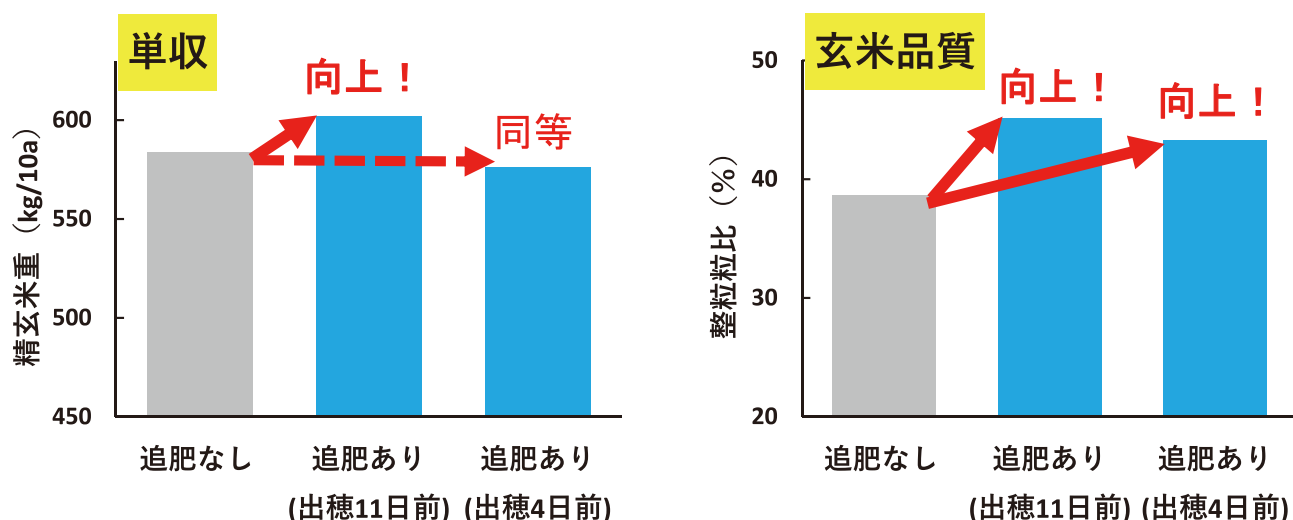


図 9 全量基肥栽培「コシヒカリ」に対する追肥効果（滋賀農技セ 2022～2023 年）

④適正な水管理

出穂期前後に水が不足すると十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各 3 週間は常時湛水管理（水深 3cm～5cm）を行います。

落水時期の目安は収穫の 5 日前ですが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させます。

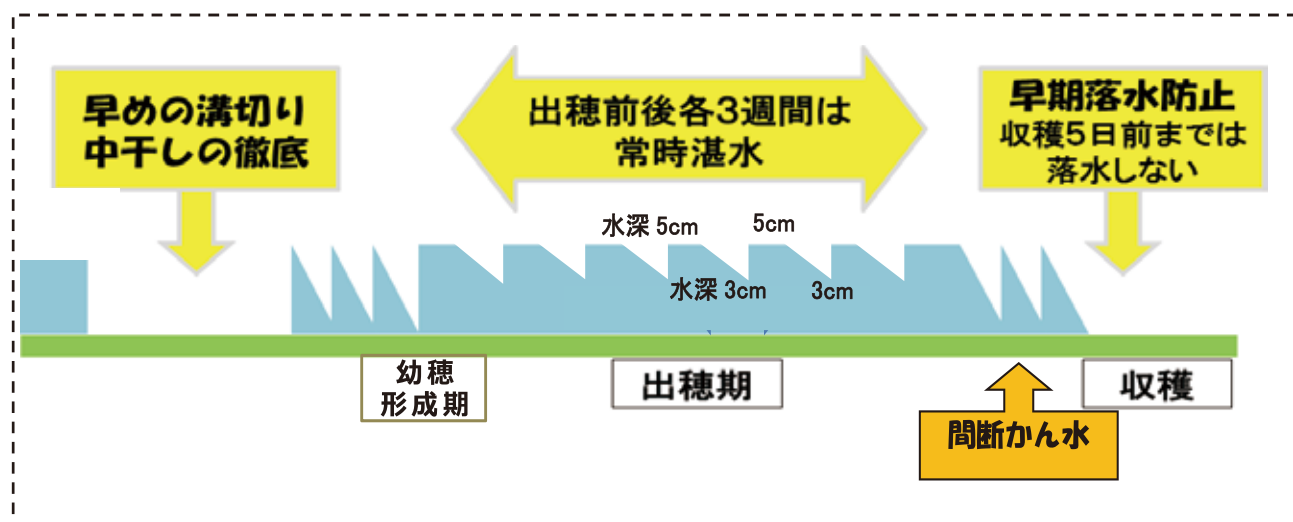


図 10 適正な水管理の目安（イメージ）

⑤病害虫防除

従来から発生している病害虫に加え、例えば水稻、麦、大豆や野菜を広く加害するミナミ アオカメムシなど南方系の害虫の定着や、一時期減ったイネカメムシなどの増加、また、これまで発生の少なかった縞葉枯病やごま葉枯病など病害の発生が増加傾向となっています。

○斑点米カメムシ類

イネの出穂 3 週間前と出穂期の 2 回の草刈りを徹底します。出穂しているほ場でイネカメムシが多く発生している場合、不稔が多発する恐れがあるため、乳熟期の防除時期を繰り上げ、出穂期に防除を行います。



近年増加している
イネカメムシ



イネカメムシによる被害
(不稔による青立ち)

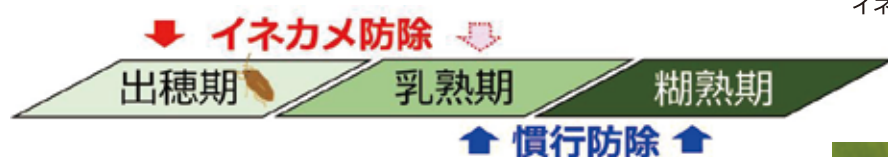


図 11 イネカメムシ多発生ほ場での防除の考え方 (イメージ)

○縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)

ヒメトビウンカの越冬場所を減らすため、水稻収穫後は早期に耕耘し、ほ場周辺の雑草を刈り取ります。例年発生が多い地域や、感染好適期間が長くなる中生・晩生は、育苗箱施薬します。6 月下旬に発病株率が 1% 以上ある場合は薬剤散布します。



縞葉枯病のウイルスを
保毒するヒメトビウンカ



縞葉枯病の病徴

○ごま葉枯病

初期の過繁茂を避け登熟後期までイネの活力が維持されるよう、肥培管理を改善するとともに、堆肥や土づくり肥料の施用、深耕等の土づくりを実践します。



ごま葉枯病の病徴

(3)さいごに

令和 7 年 5 月 20 日発表の大阪管区気象台の 3 か月予報では、6 月から 8 月にかけて、近畿地方の今後の気温は平年より高くなると発表され、今年の夏も猛暑になると予想されます。以下の参考資料も活用して「猛暑に打ち克つイネづくり」をすすめ、収量の安定化と高品質米の生産につとめましょう！

【収量・品質確保のための参考資料】



猛暑に打ち克つイネづくり



水田土づくりマニュアル



水稻生育診断情報



病害虫発生予察情報

【水稻・病害虫】 発生と防除

＝ 本田での防除の注意事項 ＝

病害虫防除所

今年の水稲病害虫防除にあたって、特に注意が必要な病害虫の発生要因とその対策を、いま一度確認しましょう。

【病害（虫害）】

1. イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）（昨年の発生量：やや多）

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。発病後の防除はできないため、ヒメトビウンカの防除を実施し、本病のまん延を防止することが重要です。

- (1) 畦畔や、ほ場周辺の雑草地の除草を行う。
- (2) 窒素質肥料の多施用を避ける。
- (3) 発病株は、早期に抜き取る。
- (4) 6月下旬に発病が多い場合は、7月上旬までに薬剤を散布する。



イネ縞葉枯病の発病株
(左) 出穂前、(右) 出穂後の出すくみ

イネ縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカ
(左) 成虫、(右) 幼虫

【病害】

2. いもち病

(1) 葉いもち（昨年の発生量：平年並）

- ① ほ場をよく見回り、葉いもちの発生を確認したら薬剤を散布します。特に上位葉の病斑は穂いもちの伝染源となりやすいため、発生させないようにします。
- ② 窒素質肥料を多施用したほ場や晩植田、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「秋の詩」、「滋賀羽二重糯」は発生しやすいため、注意しましょう。
- ③ 葉いもちの発生時期に関する情報は「県病害虫防除所ホームページ」内の「水稻いもち病発生予測 B L A S T A M」を参考にしてください。



葉いもちの病斑

(2) 穂いもち（昨年の発生量：やや少）

- ① 出穂前または穂ばらみ期～出穂期に薬剤を散布します。
発生が多い時や、出穂～開花期頃に降雨が続く等多発が予想される場合は、さらに穂揃期～乳熟期に薬剤を散布します。
- ② 薬剤耐性菌の出現を防止するため、葉いもち防除を含め同一グループの薬剤の連用を避けましょう。



穂いもちの病斑

【虫 害】

3. トビイロウンカ（昨年の発生量：少）



トビイロウンカによる坪枯れ

- (1) 海外から下層ジェット気流に乗って飛来し、多発すると吸汁により坪枯れを引き起こします。
- (2) 中生・晩生品種や晩植田は被害を受けやすくなります。本県では7月上旬までに飛来が認められた場合、早生品種でも多発する危険性が高いため、県病害虫防除所からの情報に注意してください。

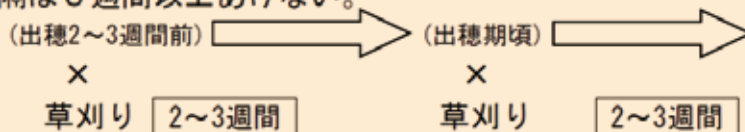
4. 斑点米カメムシ類（昨年の発生量：多）

ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、トゲシラホシカメムシおよびアカスジカスミカメなどが主要な斑点米カメムシです。主に畦畔や雑草地などのイネ科雑草で増殖し、水稻出穂後、ほ場に侵入し水稻の穂を吸汁加害して斑点米を作るため、以下の対策を実施しましょう。

(1) 雑草管理

畦畔における雑草管理のポイント

イネ出穂期前後にイネ科雑草が出穂しないようにするには、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃の2回連続草刈りが効果的である。この場合、1回目と2回目の間隔は3週間以上あけない。



※出穂期頃の草刈りから2～3週間後にもう一回草刈りを行うとさらに効果が高まる

(2) 薬剤防除

- ① ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメが多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に薬剤を散布します。
- ② 穂揃い期に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心とした出穂10～20日後の間）に薬剤を散布すると最も防除効果が高くなります。
- ③ イネカメムシの発生が多いほ場は、防除時期を繰り上げ出穂期に防除し、さらに発生が多い場合は乳熟期（出穂7～10日後）にも防除しましょう。
- ④ 粒剤を使用する場合、散布時期が早いと効果が劣るので、乳熟期頃（出穂7～10日後）に散布します。ただし、エチプロールを含む剤（例：キラップ粒剤）は散布時期が異なるため、ラベルを参照し散布しましょう。

滋賀県病害虫防除所ホームページ

<https://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

最新の発生予察情報やIPM、病害虫の見分け方などの関連情報を載せています。

また、農作物病害虫雑草防除基準へのアクセスもできます。

予察情報は6月17日、7月8日、7月23日、8月5日、8月26日に発信予定です。

～近年発生が拡大している ミナミアオカメムシについて～

病害虫防除所

近年の温暖化等の気候変動により、病害虫の発生地域の拡大や発生量の増加が生じることが懸念されています。令和6年は、特にカメムシ類の発生が目立った年となりました。その中でも、水稻・大豆など多様な作目を加害する「ミナミアオカメムシ」(写真1)は近年、発生量が多く、今後も問題となるリスクがあります。そこで、今後の防除対策の参考になるようミナミアオカメムシの特徴と注意点についてまとめました。



写真1 ミナミアオカメムシ

ミナミアオカメムシ

広食性で32種145種の植物を加害することが報告されており、水稻や大豆の害虫として世界的に有名です。暖かい場所を好む南方系のカメムシで、日本では1950年代から生息が確認されており、本県では、平成23年に大津市の予察灯で初めて確認され、現在は県全域の複数の大豆ほ場で発生量が増加しています(写真2)。一般的に、カメムシ類に吸汁加害されると、被害粒や斑点米の原因になります(写真3、4)。



写真2 大豆を集団で吸汁する
ミナミアオカメムシの幼虫

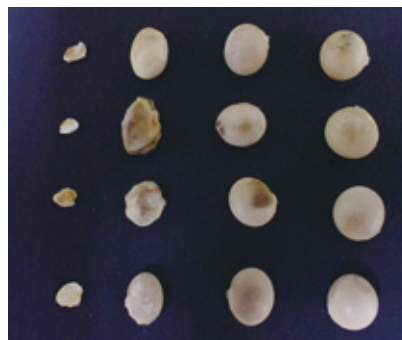


写真3 カメムシ類に吸汁された
大豆の子実(被害粒)



写真4 カメムシ類による吸汁によって
変色した玄米(斑点米)

ミナミアオカメムシは成虫で越冬し、翌年の春になると麦畑(写真5)や雑草地で活動を開始します。麦、水稻や野菜で増殖した後に、大豆の莢が着き始めたころのほ場へ飛来します。

本種は他のカメムシ類よりも吸汁能力が高いため、多発生すると被害が大きくなりやすい点に注意が必要です。そのため、発生に気をつけるとともに、大豆ほ場で発生を確認した場合、若莢期～子実肥大期に農薬を散布する必要があります。

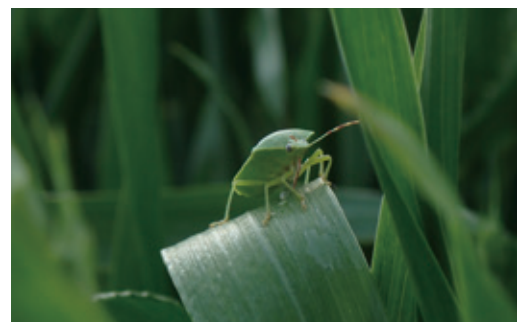


写真5 麦畑にいるミナミアオカメムシ

大規模乾燥調製施設設置農協担当課長 及びオペレーター研修会を開催

協会だより

近江米振興協会

令和7年5月16日、滋賀県農業教育情報センターにおいて、ＪＡおよび関係機関の役職員の20名の出席を得て、消費者や実需者における食の安全・安心への関心が高まっていることから、ＣＥ等の適切な管理運営による事故リスクの低減や品質向上に向けた対策を周知・徹底するため当研修会を開催しました。

まず始めに全農しが 農産部 次長 植田 好則 様から「麦の情勢について」ご講演いただきました。小麦は8割以上、大麦は5割を外国から輸入している状況で、小麦の用途はパン用が5割をしめ、国産小麦では、日本麺用では6割を占めますが、パン用小麦の品種開発やその他の用途の供給量・価格の安定、品質の向上が進めば需要が増加する見込みです。

大麦およびはだか麦は精麦して焼酎、味噌等の発酵用にしたり、押麦用にするといった加工工程を経て流通しています。

国産ビール大麦は、生産者団体とビール会社の間で契約栽培により供給され、麦芽等に加工されて流通しています。

国産大麦の品質は改善しており、輸入麦に比べ麦茶用では遜色ないと評価されています。



続いて、滋賀県製麺工業協同組合の代表理事 富江 彦仁 様より「需要者の求める小麦の品質」と題しましてご講演いただきました。

昭和 24 年創立で滋賀県産小麦を使った麺の開発・普及に取り組んでおられます。普及活動では、平成 23 年にうどん文化の発展、ご当地グルメの振興を目的として「第一回 全国ご当地うどんサミット」を、東近江市で開催されました。このサミットでは、9 府県 13 種類のご当地うどんが販売されました。

滋賀県産小麦「ふくさやか」を 100%使用したうどん、メイン具材の牛肉は「近江牛」、さらに滋賀県の醤油組合が作り上げた「だし汁」で仕上げ、徹底的に滋賀県にこだわった「近江牛うどん」が最も会場の人気を集め優勝に輝きました。

滋賀県産の小麦や野菜等を使用し、地産地消で地元に貢献するという“社会価値”につながることを意識して、主なものは近江うどん、近江ソフト麺、近江生パスタ、近江冷やし中華などの商品開発にも取り組んでこられました。

最後の講演として、「赤かび病対策と低アミロ対策と小麦のタンパク質・容積重の向上について」と題して 滋賀県農業技術振興センター 栽培研究部 専門員 博士（学術）の片山 寿人 様よりご講演頂きました。

赤かび病対策として①薬剤の適期による防除、②刈り遅れや倒伏は DON 汚染リスクが高いため、荷受時にも状況に応じて仕分する、③DON 濃度の確認と必要に応じて再調整を行う。

1 年半前に JA いわて花巻藤根ライスセンターで起こった小麦 DON 基準値超過事案から

- (1) 適期の防除と適期刈り取りの指導徹底と防除記録の確認徹底
- (2) 高水分麦の乾燥調製施設の分散運用
- (3) 自主検査ルール理解促進とサンプル採取の確実な実施

以上 3 点の対応の強化を実施した。(全農いわてプレスリリース第 6 報(12 月 26 日) 参考)

低アミロ対策について、成熟期前後の低温・多湿で低アミロの危険が高まる。刈り遅れると穂発芽しやすくなり、倒伏すると、穂発芽しやすくなる。

特に、成熟期前後に低温・降雨が続くとき、収穫期が来ても雨でなかなか刈れない時は十分に注意する。乾燥されたサンプルでなければ穂発芽の発生を確認しにくい。

これからの麦の収穫時期と梅雨の時期が重なることから、事故が発生しないよう十分注意いただきたいと思います。



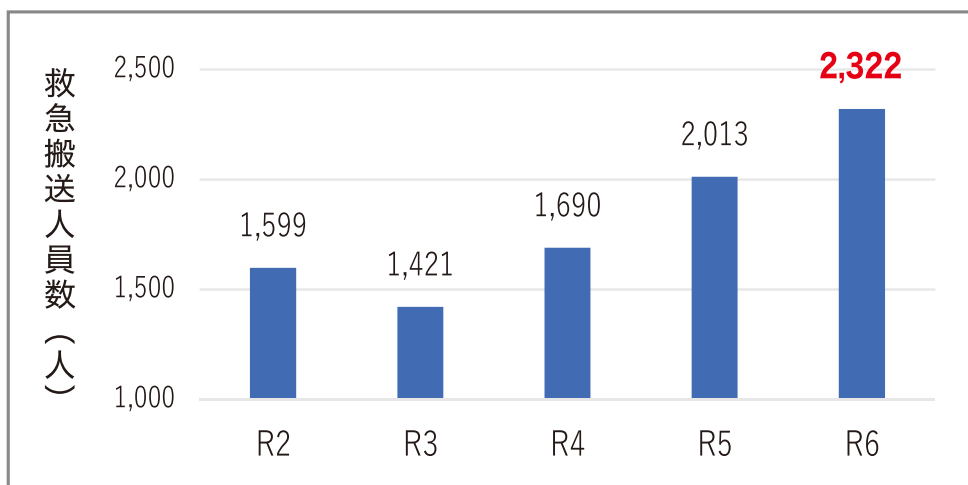
農作業中の熱中症に注意しましょう！

滋賀県農政水産部
みらいの農業振興課

令和6年度の夏季（5～9月）において、田畑等で農作業中に熱中症によって救急搬送された人数は、全国で2,322人と直近5年で最多となっています。

気象庁の3か月予報（令和7年5月20日発表）によると、6～8月の近畿地方では気温が平年より高いと予想されており、より一層の熱中症対策が必要です。

1 直近5年の仕事場（田畑、森林、海、川等）における救急搬送人員数



* 熱中症の危険性 *

症状が進行すると死亡することもあるほか、脳にダメージを与え、頭痛やめまい、倦怠感などの**後遺症**が残る可能性もあります。

※消防庁「夏期における熱中症による救急搬送人員の調査」より

2 熱中症対策

プレクーリング

農作業中の体温上昇を抑制するため、作業を始める直前に**冷たい飲み物**や**冷やしたタオル**で身体を冷やしましょう。

20分おきの休憩 水分・塩分補給

のどが渴いていなくても、**20分おきに毎回コップ1～2杯以上**を目安に水分補給しましょう。微細な氷の粒が入った「アイスラリー」や「経口補水液」がおすすめです。

3 熱中症になったときの応急処置

① 作業を中断

- ・ 熱中症の症状を感じたら、すぐに作業を中断しましょう。
- ・ 代表的な症状：汗をかかない、体が熱い、立ちくらみ、吐き気、頭痛、脱力感、判断力の低下

② 応急処置

- ・ 涼しい環境へ避難
- ・ 衣服をゆるめ、身体（首筋や脇の下、足の付け根）を急速冷却
- ・ 水分・塩分を補給

③ 病院へ

- ・ 応急処置をしても症状が改善しない場合は診断を受けましょう。
- ・ 後悔する前に119番通報をしましょう。

農作業安全チェックリスト

●農作業共通（死亡事故が多発しています！）

- ☐ 定期的に休憩をとり、無理のない作業計画をたてましょう。
- ☐ 動きやすい服装で、袖口や裾が締まった服装を身に付けましょう。
- ☐ 履物は、滑りにくい靴やスパイク付きのものを身に付けましょう。
- ☐ こまめに水分補給を行い、休憩中は日陰で休むなど、熱中症に注意しましょう。
- ☐ 機械に乗り降りする際はエンジンを止めましょう。
- ☐ 万一の事態に備え、携帯電話を身に付けましょう。
- ☐ 段差やほ場の端などに寄りすぎないようにしましょう。

●トラクター（転倒・転落事故が起きています！）

- ☐ 転倒に注意し、安全フレームは倒したままにせず立てておきましょう。
- ☐ シートベルトを着用しましょう。
- ☐ エンジンスタート時、周囲の人に注意しましょう。
- ☐ 道路走行時は、左右のブレーキペダルを連結しましょう。
- ☐ 幅が狭い道や、ほ場進入路では、低速で慎重に走行しましょう。

●刈払機（刈刃、飛散物、転倒の事故が起きています！）

- ☐ 持ち運ぶときは刈刃カバーを装着しましょう。
- ☐ 事前に作業場所の確認を行い、石や空き缶を取り除きましょう。
- ☐ 刃に絡んだ草を取り除くときは、エンジンを止めて行いましょう。
- ☐ 周囲に人がいないことを確認しましょう（5m以内は危険）。
- ☐ 滑りにくい靴を履きましょう。
- ☐ 往復刈りせず、刃の前方左 1/3 を使いましょう（キックバック回避）。

●耕うん機（巻き込まれや挟まれの事故が起きています！）

- ☐ バック時は必ず後ろを確認し、ロータリーはクラッチを切りましょう。
- ☐ ロータリーと足の距離は常に余裕をもって作業しましょう。
- ☐ 発進時はエンジン回転を下げ、ゆっくりクラッチを入れましょう。
- ☐ 硬い地面での急加速（ダッシング）や跳ね返りに注意しましょう。

●コンバイン（巻き込まれや転倒の事故が起きています！）

- ☐ 詰まったワラを取り除くときはエンジンを止めましょう。
- ☐ 手こぎ作業では、手袋をはずして作業しましょう（巻き込み注意）。
- ☐ ほ場出入りは低速で直角に、大きな段差ではあゆみ板を使いましょう。

大阪・関西万博に出展しました

近江米振興協会

5月4日、5日、12日の3日間、滋賀県みらいの農業振興課と近江米振興協会は共同で大阪・関西万博のORA外食パビリオンで開催された「滋賀の恵みフェア」に出展しました。



「滋賀の恵みフェア」は滋賀の食材や地酒を味わうイベントで、湖魚の天ぷらの試食や近江の地酒の試飲とともに、きらみずきの試食を行いました。

海外からの来場者も含め3日間で約3,000の方にきらみずきを味わってもらいました。

来場者から「大変おいしい」という声が多く寄せられました。



ガラポン抽選会



きらみずきの試食

次回は、「滋賀県魅力体験ウィーク」（関西パビリオン多目的広場）において、8月27日、28日に出展する予定です。

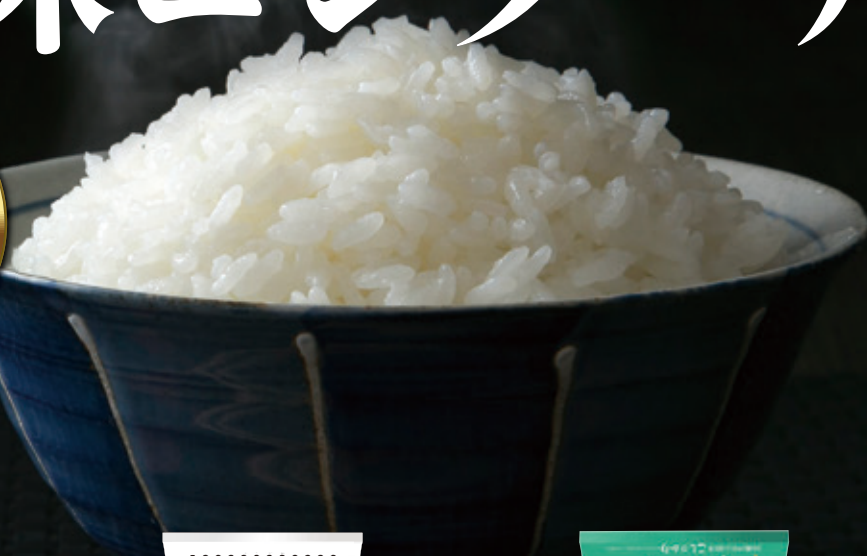
【多目的広場は入場予約不要】

あなたの自信作を出品しましょう！

近江米！
出品募集！

令和
7年度

近江米 食味コンクール



みずかがみ

夏の暑さに強く、品質に優れた早生品種です。ほどよい粘りとまるやかな甘みがあり、冷めてもおいしいのが特徴です。また、全量を環境こだわり米として、平成25年度から栽培がスタートしました。



きらみずき

「きらみずき」は、大粒でしっかりとした食感、すっきりとした瑞々しい甘さが強みで、噛むほどに甘さが広がります。食味官能試験では「コシヒカリ」と同等以上の評価を得ています。



環境こだわり コシヒカリ

「コシヒカリ」は良質、極良食味で、県内で作付けが最も多い早生品種です。本部門では、琵琶湖をはじめ温暖化防止や生物多様性に配慮して栽培された環境こだわりコシヒカリを対象とします。

県内の農業者のみならずへ

主に家庭向けに流通している「みずかがみ」、「きらみずき」および「環境こだわりコシヒカリ」について、優れた食味・品質を維持し、おいしさで消費者に喜ばれる近江米を目指して食味コンクールを実施します。下記の募集要領をご確認の上、ぜひご参加ください！

スケジュール

参加申し込み

9/12金
まで

米の出品

10/10金
まで

募集要領

参加資格

- ・参加生産者は県内在住の農業者または農業者団体（大型共同乾燥調製施設の集荷米も含む）であること。
- ・出品物は以下の全ての要件を満たす米であること。
 - ア 品種は「みずかがみ」、「きらみずき」または「コシヒカリ」で、滋賀県内で栽培されたもの
 - イ 環境こだわり栽培基準で生産されたもの
なお、「きらみずき」については「きらみずき」推進ガイドラインに定める栽培方法で生産されたもの
 - ウ 栽培履歴が明確なもの
 - エ 滋賀県農作物病害虫雑草防除基準を遵守したもの
- ・参加点数は、1生産者あたり「みずかがみ」、「きらみずき」または「環境こだわりコシヒカリ」それぞれ1点までとする。（合計3点以内）※出品数を超えて提出した場合、審査の対象とはなりません。

参加申込方法

参加を希望する生産者は、参加申込書に必要事項を記入し、出荷契約先（JAまたは滋賀県主食集荷商業協同組合）へ提出してください。

ほ場管理および生産履歴等の記載

参加生産者は、栽培管理状況等をサンプル袋の生産履歴書に記入してください。記載が不備なものについては、再提出を求めるとし、加筆修正されない場合は審査から除外します。

米の出品

出品する米は、出荷される状態の「玄米500グラム」とします。なお、最終審査に選出された方には、食味官能審査用に別途「玄米2キログラム」を提出して頂きますから、その旨ご承知願うとともに、保管しておいてください。

その他

外観品質・食味分析結果は出品者に報告します。出品された玄米についての返却はいたしません。（社会福祉団体等に提供させていただきます。）

審査方法

第1次審査 生産履歴審査として参加資格の要件を確認します。
第2次審査 外観品質および食味成分の審査として機器による外観品質測定および食味成分の分析で判定します。
最終審査 第2次審査で選出された13点について、外観・香り・味・粘り・硬さを指標に、滋賀県農業技術振興センターにおいて食味官能審査を行い、総合評価により最優秀賞および優秀賞を決定します。

表彰

第2次審査で「みずかがみ部門」、「環境こだわりコシヒカリ部門」それぞれ5点、「きらみずき部門」は3点を決定し、その中から最終審査により、次の賞を設けます。
【みずかがみ部門】 最優秀賞1点 優秀賞4点以内
【環境こだわりコシヒカリ部門】 最優秀賞1点 優秀賞4点以内
【きらみずき部門】 優秀賞 1点

主催：近江米振興協会

お問い合わせ
TEL.077-523-3920

後援：滋賀県 滋賀県農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会滋賀県本部
滋賀県主食集荷商業協同組合